

基地問題等調査特別委員会会議録

招 集

令和7年3月17日（月）午後1時 議会委員会室

出席委員（8名）

（委員長）岩 崎 康 朗 （副委員長）安 達 卓 是
門 脇 一 男 国 頭 靖 田 村 謙 介 徳 田 博 文
錦 織 陽 子 渡 辺 穰 爾

欠席委員（0名）

説明のため出席した者

伊澤副市長

【総合政策部】佐々木部長

〔まちづくり企画課〕斎木課長 藤堂課長補佐兼まちづくり企画担当課長補佐

参考人

【中国四国防衛局】

〔企画部〕有賀元宏部長

〔地方調整課基地対策室〕細光俊亮室長補佐

〔美保防衛事務所〕田中繁輝所長

【航空自衛隊美保基地】

〔監理部〕岡本善孝渉外室長 高田成美基地対策専門官

出席した事務局職員

松田局長 田村次長 田中庶務担当係長

傍 聴 者

稲田議員 岡田議員 又野議員

報道機関 5人 一般 1人

報告案件

・KC-46A空中給油・輸送機の航空自衛隊美保基地への追加配備について

〜〜

午後1時00分 開会

○岩崎委員長 ただいまから基地問題等調査特別委員会を開会いたします。

報道機関から撮影の申出がありましたので、これを許可いたします。

本日は、当局より1件の報告がございます。KC-46A空中給油・輸送機の航空自衛隊美保基地への追加配備についてでございますが、この案件については、配付しております資料のとおり、中国四国防衛局及び航空自衛隊美保基地より参考人として本委員会に御出席いただきたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と声あり〕

○岩崎委員長 御異議なしと認めます。御異議ありませんので、そのように決定いたします。

では、御案内をお願いします。

〔参考人、説明員席へ〕

○岩崎委員長 それでは、総合政策部、佐々木部長より、参考人の御紹介と委員会開催の経過について説明をお願いいたします。

佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 それでは、参考人の皆様方、御紹介をさせていただきます。

最初に、中国四国防衛局、有賀元宏企画部長様であります。続きまして、航空自衛隊美保基地、岡本善孝管理部渉外室長様です。中国四国防衛局、田中繁輝美保事務所所長様です。同じく、中国四国防衛局、細光俊亮基地対策室室長補佐様です。最後に、航空自衛隊美保基地、高田成美基地対策専門官様であります。

○岩崎委員長 本日はよろしくをお願いいたします。

それでは、参考人から説明をお願いいたします。

（「委員長、経過説明を。」と佐々木総合政策部長）

経過説明。失礼しました。

それでは、この委員会開催の経過説明、佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 本日の報告事項でもございますKC-46A機の追加配備にしまして、せんだって、2月18日でございますが、中国四国防衛局長から鳥取県知事に対して事前協議の申入れがございました。その後、2月19日付で鳥取県知事から関係自治体でもございます米子市長、そして境港市長宛てに意見照会が行われたものであります。私どもといたしましては、これまで同一機種を増機に際しては米子飛行場周辺地域振興協議会並びに本委員会の意見を承った上で市としての見解、意見を取りまとめてまいりましたので、今回も同様にいたしたいと考えております。

せんだって、3月11日でございますが、米子飛行場周辺地域振興協議会、臨時総会をお願いをいたしました。様々な御意見を頂戴をしたところでございますが、翌日付で当協議会の会長であります吉岡会長様から意見書を頂戴をしております。意見書の主な内容につきましては、大きく2点ございます。1点目が、既にこのKC-46A機の美保基地への配備に関しては同意済みであるということ。そして、もう1点は国に対しての要請事項でございまして、内容といたしましては、引き続き飛行安全、地上安全並びに騒音対策に万全を期するという、そして、地域振興策と生活環境整備をこれまで以上に取り組んでいただきたいとのこと、またあわせて、そのために必要な財源もしっかりと確保していただきたいとのこと、この点について、要請の意見をいただいたところであります。

本市といたしましては、この協議会の意見並びに本委員会におきます御意見を承った上で、最終的な本市としての意見を取りまとめを行っていきたいというふうに考えております。経過は以上でございます。

○岩崎委員長 それでは、参考人からの説明をお願いいたします。

有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 資料に沿いまして御説明をします。

まず、1ページ目でございます。空中給油・輸送機を増機する理由というところでございます。空中給油・輸送機KC-46Aにつきましては、これまで、平成25年及び平成30年に閣議決定されました中期防衛力整備計画におきまして計6機の整備が計画され、

これに基づきまして6機の取得をしてきております。現防衛力整備計画におきまして、周辺国が航空戦力を増強する中、我が国の防空体制に万全を期すため、戦闘機部隊を増勢、増強することとされているところでございます。それらが我が国周辺区域等で高烈度化する各種航空作戦において粘り強く戦闘を継続するには、空中給油・輸送機の増勢が必要でございます。このため、令和7年度予算案におきましてKC-46A、4機を取得する経費を要求をさせていただいてるところでございます。

資料2ページ目でございます。美保基地に配備する理由についてでございます。これまでに美保基地に配備するため、KC-46A、6機を取得しているところでございますが、令和7年度に新たに要求する4機の配備先につきましても、戦闘機による我が国防空任務の支援のため必要な区域全般への進出について大変有利な位置にあり、所要の給油能力を発揮できること、また、増勢する4機の運用に必要な施設整備の地積を基地内に確保できること、こういった観点から美保基地とすることを考えているところでございます。

資料3ページ目でございます。配備のスケジュールについてでございます。令和7年度に要求いたします4機につきましては、令和11年度中に配備をする考えでございます。これら4機の配備によりまして、美保基地には計10機のKC-46Aが配備されることとなりまして、現時点では、これをもって美保基地へのKC-46Aの配備は完了となる予定でございます。KC-46A増勢に伴います施設整備につきましても、令和7年度に駐機場や格納庫などといった整備に着手する計画でございます。なお、令和6年度に2機配備予定でしたが、製造企業によります大規模なストライキ等によりまして納入の遅延により、令和7年度の配備となる見込みでございます。駆け足でございましたけれども、説明については以上でございます。

○岩崎委員長 説明が終わりました。

これより委員の皆様からの質疑、御意見を求めます。御意見、質疑等ありましたら、挙手をお願いします。

徳田委員。

○徳田委員 先ほど佐々木部長のほうから、来る3月11日、基地周辺の住民代表ということで、協議会の会長さんのほうから同意を得ているということでお聞きしたところなんですけども、その空中給油機の増機がなぜ必要なのかっていう部分がですね、いま一步、私、理解ができないものですから、もう少し具体的に御説明お願いしたいと思います。1点目、それで。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 我が国周辺の航空勢力というのは、もちろん様々な国でございます。周辺の諸国におきまして、非常に航空機的能力っていうのも高まってきております。さらに、増勢も進んでいるというふうに認識をしているところでございます。そういった面から我が国の防空体制っていうのも、強化していく必要があるんだろうという考えでございます。そういう中で、日本国におきましても、戦闘機の増勢につきましても、まさに検討しているというようなところでございまして、これに伴いまして、戦闘機への空中給油機につきましても、しっかりと体制を整えていく必要があると、こういった大きな流れに基づいて、今回KC-46Aの4機増機という形を考えているところでございます。

○岩崎委員長 徳田委員。

○徳田委員 分かりました。

基地周辺の住民とはいえ、事前にもう説明されたということで、そこの方が同意してるという中で物を申すまでもないかなというのが正直なところなんですけど、主な意見として出された中で、周辺住民の安全・安心ということに特段の配慮をいただきながら、これからも進めていただくように、私として要望させていただいておきます。

それと、もう一つ、この令和7年度から令和11年度の間には4機取得ということになっておりますが、これはこれまでの例から申し上げますと、例えば単年度単位で1機ずつだとか、この5年の間にやるのか、スケジュール的なところを教えていただければと思います。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 令和7年度に4機取得するKC-46Aの配備の時期でございますけど、今の予定では令和11年度以降という形になります。

○岩崎委員長 徳田委員。

○徳田委員 分かりました。以上です。

○岩崎委員長 せっかくですから、お一人お一人御意見をいただきたいと思います。

田村委員。

○田村委員 私からは、今回のこの部隊、飛行機が増えるということになると部隊が増員すると思うんですが、大体最終的には今現在と比べて何名程度の増員となる見込みなんでしょうか。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 具体的な増員の人数につきましては、現時点で確たることを申し上げることは難しいところでございます。その上で、ちなみに令和7年度に配備予定の2機に関しましては、令和6年度に所要の操縦者、整備員といたしまして60名の増員を行うこととしているようなところでございまして、こういった点検等、整備の部分につきましても、しっかりと体制を整える必要があるというふうに考えてございます。具体的には、今後、大体概算要求の時期でございますけれども、防衛省のほうで増員をする計画がございましたら、米子市さんのほうに、こういう人数ですってということをお伝えをさせていただきたいというふうに思っております。以上でございます。

○岩崎委員長 田村委員。

○田村委員 よく分かりました。今後、最終的にかなりの増員となることによって、この体制というのは維持できるんだろうと思うんですが、今、私が懸念してるのは、成り手不足ですね。全産業に言えることなんですけど、そういったことが航空自衛隊の中でも起こり得るんじゃないかなというふうに懸念しております。そうなった場合、例えば他の部隊から、かき集めるんじゃないですけども、招集したりって、そういうようなことあると思うんですが、その辺りの対策としてはどうなんでしょうか。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 これは航空自衛隊にかかわらず、陸海空自衛隊につきましては、募集については非常に厳しい状況でございます。地方協力本部っていいまして、防衛省・自衛隊の組織がございまして、募集の関係のですね、この航空自衛隊の組織につ

いてもしっかりと裏支えできるように、引き続き地元の皆様と連携しまして取り組んでいきたいというふうに思っております。以上でございます。

○岩崎委員長 田村委員。

○田村委員 今回、増機ということで様々御説明いただきました。また、先ほど徳田委員からもありましたが、地元がもう合意されているということでありましたら、私としてもそれをどうこう言うということとはございません。引き続き、日本の国防をしっかりと担っていただいて、国民の安心・安全のために尽くしていただきたいと思います。以上でございます。

○岩崎委員長 次に、安達委員。

○安達委員 何点か教えていただきたいと思うんですが、昨日まで境港で、14日、15日ですか、市長、副市長もおられて説明会があったというふうには聞いているんですが、2回合わせて、50名近くってニュースで報道しておられましたが、そのような地元説明、地域住民への説明を米子市ではなくて、地元の方がおられる周辺整備の協議会のほうでという。先ほど経過の説明があったんですが、そのような会長の回答もあったように聞いているんですが、何点か聞く中で聞かせてもらいたいんですが、私が今までこの基地問題の会議で頂いた資料では、先ほど、お二人の委員が言われたんですが、令和元年9月の資料で、航空自衛隊基地における配備計画ということで、項目としてはC-2輸送機、それから輸送ヘリコプターCH-47、これは陸上自衛隊なんですが、それから空中給油機KC-46Aがそれぞれ配備予定で、T-400の練習機は浜松基地に移設というような情報をもって、項目としては美保基地の定員増減という項目がつくってありまして、令和2年度末で約950名という数字を入れられた資料があるんですが、先ほど田村委員からあったように、基地単位がどのような計画で増員されるのかなってという数字は、どこかで集約されると思うのですが、あらかじめいただきたいなと思う、これは要望ですけれども。ぜひ資料提供をお願いしたいと思います。

それで、このKC-46Aが今後4機増機されるということを伺ってるんですが、基地にはまだ余裕があるって先ほど言われたと思うんですが、それは基地内の余白っていうんですか、土地の中でまだまだ設備計画の施設ができるというふうに捉えるんですが、そうはいっても、まだまだ広がるっていうふうには、どこかで歯止めがあるかなと思うんですが。最大、今回は4機というところですが、先ほどの計画では令和11年度ですか、4機納期という見込みに合わせて、整備場とか、それから1番あるのは、輸送機ですから、タンクがどこかに増設されると思うんですが、そういうところは委員会では数字の計画値とか、具体的なものがあるなら教えていただきたい。いわゆる格納庫ですね、どんな大きさのものを造っていかれようとしているのか教えてもらえませんか。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 最初に、美保基地の定員の関係がございました、資料要求の関係ですね。これは具体的に、基地の体制を外に出すっていうのがなかなか難しいところもありますので、資料提供ができるかどうかは検討させていただいて、また後ほど市を通じて御回答さしあげたいと思っております。これが1点でございます。

それから、基地の中の施設整備の関係でございました。今、7年度に計画してございますのは、整備場であったりとか、格納庫であったりとか、それから燃料タンクのほうも増

設されるのかっていう話がございました。これについても計画はございます。ただ、具体的に、敷地の面でいきますと、今まさに自衛隊のほうにつきましては、非常に古い施設がございまして、老朽化しているっていうのがございます。いろいろなところで再配置をしたりとか、いうようなところで決めていってるような状況でございますので、そういった観点から、敷地内でしっかりと対応していくっていうことになっていくのかなというふうに思ってますけれども、お答えになってますでしょうか。

○岩崎委員長 安達委員。

○安達委員 自分もいろいろ基地と関わる業務に携わったことがあるわけですし、この間、1月にも新年の祝賀会ですか、出かけさせてもらって、基地内に車を止めて、祝賀行事にも参加させてもらいました。以前も今までもそうだったし、今までは仕事とはいえ、納涼の8月の盆踊りを含めた踊りとかで基地内に車を止めて、市長を誘導したこともあります。そういうところで、広さ的にはあるのかなということと、もう少し振り返れば、隊内官舎っていうのがございまして、それは以前からいうと、幹部の方が住まれる戸建ての建物に入らせてもらったことがあるんで、広さ的には大体分かるんですけども、余裕があるっていうところは直近で感じられる分はあるかなと思ってます。

それとは視点を変えてですけども、この間、その周辺整備の協議会、地元の委員さんが集まれた会で言われたのは、ほぼほぼ周辺の基地に関わった振興策を熱心に要望をかけたような発言が多かったなというふうに思ってます。周辺整備の方はそのように思われるかなと思ってます。というのは、自分のうちもそうですが、若干農地もありまして、畑に出て、C-2の旋回を真下で見させてもらおうと、騒音もあるなと思います。ただ、C-1よりは静粛性に優れた技術で改良されたっていうのが当初の説明でしたので、それはそれですが、このKC-46Aもそうだし、双発のヘリもありますし、騒音ではこれから減ることはないだろうなと思ってますが、このことに関してはどのように対応とかを考えておられるか。増機を、感じるままに、感じるものを我々は受け止めないといけないわけですし、教えていただければと思います。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 いろいろと御指摘いただいているのかなと思いましたけれども、最後のほうで、まさに地元のほうに増機をすることによって騒音の状況がどうなのかっていうのが一つあったのかなというふうに思っております。基本的に、航空自衛隊のほうは安全第一で、それを基に運用していくっていうのがまず第一でございます。その上で、静音性につきましても、いろんな機種も最新の機種になってきてますので、C-1からC-2になって、静音性も先ほど委員のほうからもございましたように、そういった観点もございまして、いずれにいたしましても、周辺への影響を最小限に抑えるような運用に努めていきたいと思っております。そういう中で、例えば早朝だとか夜間だとかは、こういった訓練につきましても、できるだけ配慮した形で最小限に抑えるような形で訓練にも臨んでいきたいというふうに思っております。引き続き御理解賜りたいと思います。

○岩崎委員長 安達委員。

○安達委員 訓練なのか、それから本当に輸送を、KC-46Aあたり輸送機ですから空中給油をするために離発着されると思うんですが、特にC-2は訓練をしてるだろうなと

いうことは分からないでもないです。特に年度末は訓練生の見極めをしていくためにかなり頻度を多くして、夕方とか、日没後何時までとか、ルールがあるわけですが、される頻度は段々多くなるだろうなとは思ってます。やむを得ない訓練もありますから、それはやむを得ないかなと思うんですが、さっきも言いましたように、増機、機数も増えるし、機種の種類にもなりますので、増えるということを我々前提で思ってますので、騒音っていうのはかなり技術が進歩してC-2はよくなってるとは言われますし、KC-46Aは旅客機仕様ですから、もともと音は低くつくってあるっていうのは聞きますが、機数が増えると、その辺のところも安全性と騒音は今まで以上に対応をお願いしたいと思います。

委員長が言われたように、委員からの質問をと言われましたので、一通り終わった後でまた後でしたいと思います。以上です。

○岩崎委員長 よろしければもう、御意見も。いい案も言ってください。

(「続けて質問させてもらいます。」と安達委員)

安達委員。

○安達委員 質問と絡めながら意見を言わないといけないんですけども、自分の部分で、分からないところは聞かないいけないわけですから、それはあえて答えていただきたいと思うんですが、この最初のくだりの説明があったところで、一番最初のページになると思うんですが、丸が3つあって、1ページの2ですね、3行目、高烈度化っていう言葉、我々ふだんはあまりこういう言葉を聞くことがないので、この用語っていうのが防衛上に出てくる、よく使われる言葉だろうとは思いますが、この高烈度化っていうのは防衛上に必要な機能を有する言葉なのかなと思うんですが、もう少し具体的にかみ砕いて説明してもらえますか。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 1ページ目の写真の右の下にもございますように、様々な国の航空機のほうが、例えば領空侵犯したりとか、領海に出てきたりとかっていうようなところがあるわけがございますけれども、そういった中で、非常に過密化しているっていうのはあると思います。いろんな飛行機が来たりとかっていうことで、多いていうのが一つあると思います。具体的に激化しているっていうのは、いろんな機種もそうですし、機数も含めて、たくさん領空のほうに進出してきてるっていう状況がある、そういう中において、戦闘機が例えば領空侵犯に対してアプローチをして、外に行くようにっていうことをやるわけですが、そういった回数も増えてきている、こういったイメージを激化というふうに、高烈度化しているっていうふうに見ていただければいいのかなというふうに思っております。

○岩崎委員長 安達委員。

○安達委員 管制がありますよね、管制塔。タワーって言うっておられるんでしょうか。昨日までの会議とかを傍聴して、出雲空港の管制も美保基地が機能を有しているんですか、そこは教えていただけますか。

○岩崎委員長 岡本航空自衛隊美保基地監理部渉外室長。

○岡本航空自衛隊美保基地監理部渉外室長 出雲空港自体の情報圏という小さい区域につきましては、出雲のほうで持っております。ただ、ある高度帯以上の大きな空域、アプローチエリア等と言ったりはするんですが、そういった空域につきましては美保の管制帯

のほうで管理して誘導等しております。よろしいでしょうか。

（「分かりました。」と安達委員）

○岩崎委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 この委員会で、もう今、賛否を言われてきたんで、順番に諮らずに、自分の賛否を言って、判断されるんじゃないですか。これ、質問の時間。

○岩崎委員長 おっしゃることはよく分かります。

それでは、安達委員、一応賛否の御意見を言って、まとめていただければと思います。

〔「委員長」と錦織委員〕

○岩崎委員長 錦織委員。

○錦織委員 今日初めて米子市議会では説明を受けたわけだから、ただ賛否だけではなくって、質問もしたいと思って、私は今日来たんですが。

○岩崎委員長 もちろんです、当然です。

〔「じゃあ、質問した後に賛否を言う」と錦織委員〕

○岩崎委員長 御意見も言われると。

安達委員、そうしましたら、安達委員の御意見を、賛否の御意見を言われて、それでもうまとめられたら。御自身の御意見ということで。質問も一通り大体終わられたと思いますので、お願いします。

○安達委員 先ほども言いましたように、いろいろな地元の会議も傍聴させてもらって、周辺整備の協議会の委員さんはほぼほぼ、周辺整備の地域振興に意見が集中しているなあと思っているところは聞かせてもらいました。そういうところで、自分もそこに理解をしないといけないなとは思っているのですが、そうはいっても、安全対策とか、それから、先ほど管制のことも最後に聞きましたですけども、この辺の周辺の管制能力も美保基地は有しているというところを理解するに当たって、今まで以上に安全策を、対策を、またそういった、関わる環境整備もやっていただくことは最大限發揮していただきたいという思いで自分は意見を言ってきたつもりです。以上です。

○岩崎委員長 それでは、渡辺委員からお願いします。

渡辺委員。

○渡辺委員 もうちょっと委員会運営してほしいですね。これは要望しておきます。

私はC-1 配備のときに基地で住宅移転をしたんですけど、それでも一番空港に近いところの家だったんですけども、C-1 はもう配備されて、移転は完了してなかったんで、C-1 が飛び立つ前は家が震えます。それぐらい音も震動も大きかった。それから今C-2 に替わってきたということと、周辺協議会もその頃は篠津、和田、崎津まででした。それが今は弓中校区ですね、彦名、夜見、富益。もう範囲広げて協議をする場を持っているという中で、4 機の配備に対して同意という形を取られた。であるならば、私はこの4 機の配備に対しては賛成をしたいと思います。

ただ、一つ伺いたいのは、10 機配備されたときに、訓練ではその10 機が毎日飛び立つんですか。どういう訓練になるんでしょう。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 訓練の内容といたしましては、今現在4 機で運用させていただいてますので、具体的に言いますと、もちろん空中給油という訓練もございますけ

れども、長距離の輸送訓練であつたりとか、あるいは基地の周辺では、例えばこれはC-2もそうでございますけども、ローアプローチをしたりとか、タッチ・アンド・ゴーもやることもあるんだろうと思いますけれども、周辺への影響も配慮しながらやらせていただいているということで、訓練の内容につきましては特にその4機から10機になったところで大きく変わるものではないというところではございます。

○岩崎委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 私、毎日見てますので、空中空輸機の訓練。再開になってからもですけど、結構これ威圧感があるというか、色がね。何となくC-2とかと違うんで、10機飛んだらどうなんだろうなとは思いますが。地政学的に、書いてありますように、ウクライナ侵攻してるロシアとか、北朝鮮とか、中国共産党軍とか、台湾、尖閣に来るかもしれませんから、そうなったとき、尖閣から北海道の真ん中である美保に置かれるっていうのは至極当然のことじゃないかなと思いますんで、そのように意見申し上げたいと。以上です。

○岩崎委員長 次に、錦織委員。

○錦織委員 最初に、私は市のほうに、当局に対して、苦言を呈したいと思うんですけども。境港市では、住民説明会が丁寧に行われたというふうに思ってます。被害を被るといふか、心配するのは周辺の振興協議会の方たちだけではないので、そこは市民全体の質問をしたりとか、そういう機会を提供すべきだというふうに私は思います、今でも。境港市のほうにも出かけていきまして、やっぱりこういう会は必要だなというふうに思いました。ということで、苦言を呈したいということで、まず最初に言っておきたいと思います。

それで、私もこの間、地域振興協議会だとか境港市の住民説明会だとか傍聴させていただきまして、そこで理解できたところもあるんですけども、理解をもう少し深めたいという思いで、それを聞いてなお、今日は幾つか質問を用意してきましたので、答えられる範囲でお願いしたいというふうに思います。

現在、国内ではこの空中給油機を配備してるのは愛知県の小牧基地ですよ、そこには4機、767が配備されているということで。この美保基地にはKC-46Aが今4機配備されてるということで、6機になりますよと。当初は確かに2機だったのが4機になって、4機といふか、6機に増機されるっていうこと。たしか中期防衛計画では増機の話も出てましたけど、これが美保基地に持ってこられることはないだろうな、恐らく小牧基地だろうなっていうふうに勝手に想像してて、この美保基地に配備されるということで大変、正直驚きました。説明では、周辺国の航空戦力増強の対応で美保基地が小牧に比べて言わば地の利がいいというところで配備されるというふうに思うんですけども、この資料を見まして、大体KC-46Aの姿は分かるんですけども、1ページ目、2ページ目のですね、この地図のところですね、それをもう少し説明をいただくのと、それから、どの国を想定しているかっていうことについて、まず伺いたいと思います。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 まず、この資料の1ページ目の右端の地図を見てのイメージかと思いました、御質問のほうはですね。具体的な国というのは、もちろん我が国におきましては、日本海側におきまして北朝鮮、ロシア、それから中国と、様々な国に囲まれているような状況になるわけございまして、その中で、様々な国においていろいろな活発な活動がなされているっていうところで、その一つの事例といたしまして、こちら

右下の資料を出しまして記載をさせていただいてるっていうような状況でございます。例えば、写真の右の上のほうでいきますと、中国のこれ空母でございます。もともと「遼寧」っていう空母がありまして、これ、先のほうがとがってるような形になってまして、まさに空母着艦、離着陸できるような形ですね、こういった空母も中国のほうは持っている。さらに追加されまして、「山東」っていうような中国のほうの空母もさらに進出できるような状況になっているっていうようなことが見てとれるかなと思っております。そのほかにも、これは偵察無人機であつたりとか、J-20戦闘機っていうのは、これも中国でございますけれども。様々な国が日本海におきまして、領空のほうを侵犯してきているっていうような状況があると。プラスアルファ、これは防衛白書のほうでも記載をさせていただいてますけれども、相当の数の戦闘機が増えているというような、そういう状況があるっていうことは御説明をさせていただければと思います。以上でございます。

（「次のページもです。」と錦織委員）

次のページの、2ページ目のこの右の写真でよろしいでしょうか。

（「はい。」と錦織委員）

これ、我が国のほうの戦闘機の配置について記載をさせていただいております。具体的に、北から申しますと、千歳基地、それから三沢基地、それから小松、それから九州のほうへ行きまして、築城、新田原、それから南のほうに下がりまして那覇というところで、日本海側といいますか、全国に戦闘機を配備させていただいております。あと、プラス、百里のほうにも戦闘機を配備させていただいております。これ、令和3年度にも御説明させていただきましたけれども、南西地域への防衛体制っていうのはしっかりと取っていく必要があるという観点もありまして、今は、実はそれだけではなくて、太平洋も含めまして、様々な展開ができるように、太平洋のほうは大きな空域がございますので、そちらのほうもフォローできるようにということで、そういった観点も含めまして、美保基地というのは非常に適切な位置にあるというようなところで考えてございます。今、冒頭にも御説明させていただきましたけれども、戦闘機につきましては、例えば新田原のほうのF-15につきましては、F-35Bという機種に変更することでもう決まってるわけでございます。こういった従来から使っていた戦闘機等につきましても、最新型の戦闘機に配備を変えていくというような、こういった検討も日本国においてなされてるというところでございます。以上でございます。

○岩崎委員長 錦織委員。

○錦織委員 この日本地図のところの、グレーの囲い枠のところと青い囲い枠があるんですけど、これはどういう違いなんですか。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 2ページ目の下のグレーの部分につきまして、これ、機種で分けてございます。F-15といいまして、戦闘機、これにつきましてはグレーで分けさせていただいております。千歳だとか小松、それから今申し上げた新田原のF-15、それから那覇のF-15でございますね。以上でございます。

○岩崎委員長 錦織委員。

○錦織委員 分かりました。

それでは、次です。境港の住民説明会だとか米子の地域振興協議会でも、特に住民説明

会では騒音被害っていうのも増えることに懸念をされるという声が相次ぎましたけど、訓練時間を守り、騒音が増えないよう配慮するっていうふうな御返事だったというふうに思います。それで、本当にそのことが可能なのかなって。今4機で、10機になったときに、想像がつかないんですけれども、現在の離発着の回数っていうのは月当たりどのぐらいになるのか伺います。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 実動で、1か月で、4機で、50回離着陸させていたでいて、約50回というところでデータがございました。委員のほうからもございましたけども、まず、回数につきましては、もちろん、機数が増えることでございますんで、増える可能性っていうのはあるんだろうというふうに思ってます。ただ、どれぐらいになるのかっていうのは、その時々々の所要、運用にもよりますので、今ここで具体的な回数についてはお答えすることはできないことを御理解賜りたいと思います。

○岩崎委員長 錦織委員。

○錦織委員 可能性はあるけれどもっていうことなんですけど、今は朝7時から夜10時までですかね。これ、現状がどうなってるか分からないんですが、例えば夜10時以降にするっていうときには、事前に協議会とか地域のほうには連絡があるんでしょうか。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 まず、委員のほうからもございましたとおり、今、基本的には7時から22時までの範囲でということで、これが基本でございます。こういった形で運用させていただいてると。それで、もちろん夜間の訓練につきましては、日没から2時間半というところでございますので、例えば19時が日没でございましたら、そこから2時間半でございますんで、21時半ですかね、そこぐらいまでに終わるというようなことで、そういった配慮をさせていただいております。基本的にはそれがベースでございますので、そういったところをしっかりと部隊のほうは運用を守っていきたいというふうに思っております。ただ、これも御存じかも分かりませんが、例えばですね、隠岐の島のほうで急患空輸があるとか、例えば国際緊急援助隊みたいなことで、海外で災害が起きましたと、そういったときに人道支援的なもので物資を運搬したりとか、医療行為を行うとかもございますので、様々なそういった観点では、実動としてはそれを超える可能性もありますけれども。御理解賜りたいと思います。

○岩崎委員長 錦織委員。

○錦織委員 そういう緊急事態っていうのは想定できると、実動の給油っていうのが恐らくまだないと思うんですけれども。午後11時ぐらいになってからね、ゴーと鳴ったりとか、そういうことになると、住民は非常に心配、何事かっていうことで、できるだけ事前に対応はしていただきたいというふうに思います。

単純に考えても、4機から10機っていうたら、訓練のやり方とか運用の仕方がいろいろあると思うんですけれども、騒音は増えるんじゃないかなっていうふうに思います。整備に安全を尽くすっていうことは当然のことなんですけれども、何か感覚で増えたなとか、そういうことじゃなくて、配備前後の騒音を比較するっていうことも、私は必要だというふうに思うんですけど、今幾つかの地点で騒音の調査っていうのが常時されているのか、今後についても伺いたいと思いますけど。

○**岩崎委員長** 有賀中国四国防衛局企画部長。

○**有賀中国四国防衛局企画部長** 御質問ありがとうございます。4機から10機になって、騒音の影響、どういうふうに把握していくのかという御趣旨だと思いましたが、現在、美保基地におきましては国のほうで3か所、騒音測定器を設置させていただいております。そういった状況を、国の中国防衛施設局のホームページのほうにも掲載をさせていただいているような状況でございます。10機になるのはもっと先の話でございますけれども、引き続き、これは常にホームページのほうに出させていただいてますんで、我々としてもそれを注視しながら、必要な対策は必要に応じて対応していきたいというふうに思っております。以上でございます。

○**岩崎委員長** 錦織委員。

○**錦織委員** それで、何回か傍聴してて気になったんですけど、現時点では10機配備して完了するということが、現時点ではあると、今はないけれども今後はまた増機があるのかなというふうにも考えますが、可能性としてはどうなのでしょう。

○**岩崎委員長** 有賀中国四国防衛局企画部長。

○**有賀中国四国防衛局企画部長** 国際環境におきまして、今の日本国の防衛を考えたときに、現時点でも、11年度に配備するということを今決めてるわけでございますけれども、そういった、国際関係にある中では、この4機を追加させていただいて、10機で完了予定ということ、現状といたしましてはそういう考えでございます。これ以上につきましては、現時点では申し上げられないということで御理解賜りたいと思います。

○**岩崎委員長** 錦織委員。

○**錦織委員** 国際情勢によっては変わりますよということだと思うんですけど。

それで、機種の安全性についてなんですけど、昨年8月のトラブルのときは結局、隊員の人為的ミスだったというふうに、いろいろマニュアルなども今度は作ってやりますよということなんですけれども。12月の説明の際に、新たな懸念事項っていうのが、米軍機を使用するときの高高度で給油するときには何か強震が起こって配管にひび割れが発生するおそれがあるっていうようなことがあって、今々すぐには危険じゃないけれども、これは懸念材料だというふうにして報告がありました。私、そのときに危ないじゃないかと、そんなひびが入ったり、もしかしたらっていうふうに言ったら、それはコックピットで分かるので、最寄りの基地に行って部品を交換しますという回答で、そのときは何となく納得したんですけど、よく考えてみたら、例えば12月でも、米国のほうに1機が長期運航の訓練に行ってますよね。太平洋上に行ってるときにそういうのがあったときに、これってもつのかなっていうふうに思ったりして。コックピットでそういう事象が発見されたりするときにね、どのぐらいの滞空時間というか、大丈夫なものなのかなというのが疑問です。

○**岩崎委員長** 有賀中国四国防衛局企画部長。

○**有賀中国四国防衛局企画部長** まず、12月に御説明をさせていただきました、追加の技術的課題というところだったと思います。御質問にもありましたように、空中給油を行っているときに圧縮空気の、その配管に亀裂が発生するおそれがあるというような事象があったと思います。これにつきましては、現在、製造企業において恒久的なものは検討しているというのがまず1点でございます。その上で、そういった事象が起きたとき、

どうするのかという話でございました。一般的には、航空機のいろいろな動かすものにつきましては、油圧のもので全部フォローできてるんですね。基本的に圧縮空気の部分については、その油圧空気を補完するようなものでございまして、それが仮に発生したからといって、直ちに何らかの飛行に影響を及ぼすものではないということで、仮に長距離であったとしても、それで直ちに緊急的に着陸をするっていうようなことにはならないんだろ
うなという認識でございます。

○岩崎委員長 錦織委員。

○錦織委員 分かりました。

あとですね、人員は現在に比べて、10機のとときの体制っていうのは。令和7年の2機
のときには、それに対応し60人ぐらい増えますよということなんですけど、あとはあまり
はっきり言えないってことですが。隊員やそれから整備員の宿舍の増も、かなり大
きなものが必要なんじゃないかなっていうふうに思うんですけど、それも基地内で確保す
るのですか。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 一概にその基地の中でどれだけ増やすとかっていうの
は、今現時点で具体的な数がお示しできないんですけれども。もちろん近くの一般的な民
間のアパートとかを借り上げるっていう場合もございますので、これにつきましては、そ
の所要所要に応じて、我々としては速やかに基地と宿舍が往復できるような、しっかり体
制が取れるようにやっていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○岩崎委員長 錦織委員。

○錦織委員 あと、その10機全て配備されたときに、格納庫には何機入るのかなと。そ
れと、基地は広いかもしれないけど、10機を配備するっていうことで、土地を、借地か、
買い上げるか、そういうことも必要ではないかなっていうふうに想定しますが、その点
はどうでしょうか。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 まず、格納庫に何機が入るかっていうのは、格納庫につ
いては1機が入るという流れになります。このKC-46Aが全て格納庫に入るというこ
とを前提にして整備をするわけではございませんで、基本的に大きな輸送機につきましては、
外に配置するのが基本でございます。

それから、基地の拡張の話がございましたけれども、現時点では、北側の用地について
は今、土地の取得について所有者のほうと調整中でございますけれども、基本的に、大き
な土地の確保っていうのを今現在考えているということではございません。先ほどお話し
させていただきましたけれども、様々な自衛隊の施設というのは老朽化してる場所もご
ざいますので、そういったところの建て替えとか、いろいろな配置とかも含めて、今後検
討していくということになるかと思っています。

○岩崎委員長 錦織委員。

○錦織委員 答弁ありがとうございます。美保基地に10機配備するということで、軍事
的には強化されると。それから、重要な兵たん地になることから、中国や朝鮮半島を刺激
するんじゃないかというふうに、ますます危険な地域になるというふうに思います。

住民説明会で私、気になったんですけれども、しっかり外交するためには抑止力体制を

整えなければならないと。それがなければ外交も成功しないよってというようなことを説明されたというふうに思います。かなり抑止力っていうことをやり取りされたと思うんですけど、今、日本は抑止力が足りないから外交能力がないのかといえ、私はそうではないというふうに思ってます。外交能力がないから抑止力に頼ろうとするのではないのかというふうなことを指摘して、私はこの米軍機に給油可能なKC-46Aの追加配備には断固反対したいと思います。以上です。

○岩崎委員長 次に、国頭委員。

○国頭委員 渡辺委員も言われましたけど、近くに住んでおられる方はやはり騒音だということで、かつてはC-1でうるさかった。それで、C-2になったりですね、近年は大型ヘリ、それから空中給油機が配備になって、だんだんと後方支援としての美保基地の役割が増大するに従って、戦闘機がある基地とは違うんでしょうけども、それと同等の安全保障じゃないですけど、危険っていうか、そういうものは増してきてるんじゃないかなと思ってます。これだけ輸送機等、それから空中給油機があるっていう拠点となって、相手からは見られるという感じじゃないかなと。かつ、民間と共用してる基地ということでもありますので、何かあったときには、この基地はどういうその備えということも前から気にはなっております。

先ほど安達委員が言われた、これだけ空中給油機が入るとなると、燃料の貯蔵のところがやっぱり増えてくるということになると。何かあったときに、それを鎮圧するような体制もしっかり考えていただかないといけないのかなと思っておりました。そういったものも含めながら考えておられるという計画なんでしょうか。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 最後のほうで、燃料、タンクのほうが増加するんじゃないかということだったと思いますけれども、基本的にこういった施設をつくるときには保安距離みたいなものをとった上で、保全上観点からしっかりとやるっていうのがまず基本ではございます。その上で、もちろん美保基地のほうは航空機を運用するわけではございますけれども、あわせて、そういった燃料タンクもございますので、要は消防自動車だとかですね、自前の自動車のほうも待機した上で対応しているっていうのが一つ言えるのかなというふうに思っております。事案、事故が起きないような形でしっかりと取り組んでいくというのが重要だというふうに思っておりますので、引き続き対応していきたいと思っております。

○岩崎委員長 国頭委員。

○国頭委員 事故も含めて、対応していただきたいなと思います。

これだけ配備されるというのは、よくよく考えてのことだと思いますので、理解はしますが、これから配備されて、実際に先ほどからあったように運用された場合に、周辺住民の方からのいろいろな意見というのは出てくるのかな、と。また新しいことも出てくるかもしれない。そういった場合には、防衛省としても地元の皆さんの意見を実際に聞いていただきたいということは、切にお願いしたいと思っております。

○岩崎委員長 次に、門脇委員。

○門脇委員 今まで委員の皆さんから、いろいろな意見とか御質問とかあったわけですけども、少し重複いたしますが、御容赦願いたいと思います。

私のほうからも今後の訓練のことについてお伺いしたいと思いますけど、安全対策とか騒音対策、こういうものが一番どうしても心配になるところでございますので、そういう観点から、今後の訓練だとか離着陸についてだとか、先ほどからお答えいただいておりますけど、そのほかで何かございましたら。今後の計画だとか、あるいはその考え方について、ございましたらお示しいただきたいと思います。

○岩崎委員長 有賀中国四国防衛局企画部長。

○有賀中国四国防衛局企画部長 先ほど来お話しをさせていただいてるとおり、まず、安全につきましては、これは安全第一、当たり前でございますので、しっかりと日頃の点検、整備含めまして、運用する上で安全を確保してやっていくというのは重要だと思っております。それから、騒音につきましても、繰り返しになりますけれども、やはり夜間や早朝の飛行っていうのが一番皆様のほうには影響があるんじゃないかなというふうに思っておりますので、そこも最小限に抑えるような形で運用していくというようなところで、できるだけ騒音についても配慮してやっていきたいというふうに考えてございます。以上でございます。

○岩崎委員長 門脇委員。

○門脇委員 これは要望になるんですけども、周辺の住民の方、周辺の地域の方、こういうところのさらなる安全対策をしっかりと図っていただきますように、要望しておきたいと思えます。

最後に、私の考え方を述べさせていただきますけど、現在の世界情勢を鑑みた場合に、防衛力を増強することは必要不可欠なことだと私は考えておりますので、空中給油・輸送機、KC-46Aですね、これの追加配備をする計画については同意したいと、同意することにしたいと考えております。以上です。

○岩崎委員長 一通り、質疑、御意見を求めましたところ、一通りお話がございました。ほかにありませんか。

〔「なし」と声あり〕

○岩崎委員長 ないようですので、本件については終了いたします。

中国四国防衛局及び航空自衛隊美保基地の皆様、本日はお忙しい中お出かけいただき、誠にありがとうございます。

以上で基地問題等調査特別委員会を閉会いたします。

午後２時０５分 閉会

米子市議会委員会条例第２９条第１項の規定により署名する。

基地問題等調査特別委員長 岩 崎 康 朗